

幼虫のエア—感染オーマイガツ/ KKT、TKU

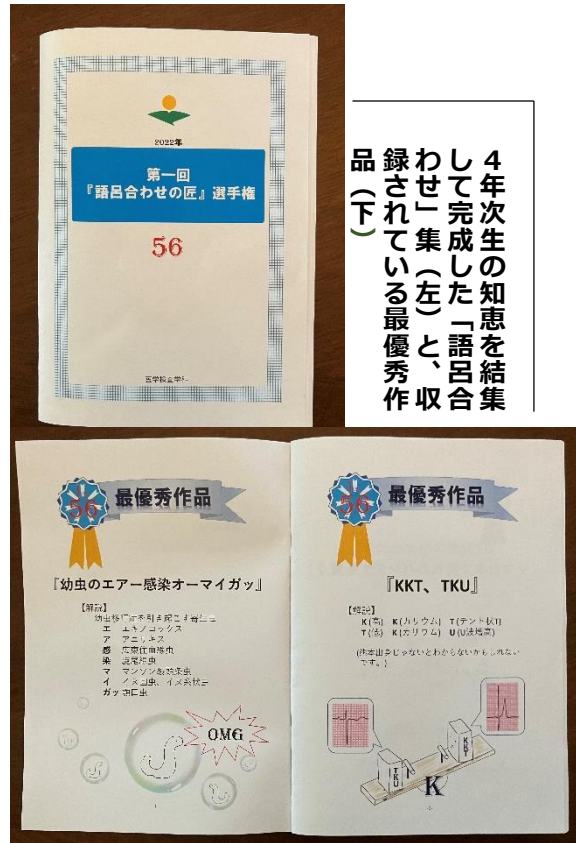
楽しんで国試合格目指せ！**勉強の強い味方「語呂合わせ集」を作成**

「幼虫のエア—感染オーマイガツ」一。医学検査学科では今年、初めての試みとして「第1回『語呂合わせの匠』選手権」と銘打ち、4年生に国家試験に関わるオリジナルの語呂合わせ集を作成してもらいました。

語呂合わせは、国家試験に向けた膨大な知識の暗記を助けてくれます。しかし、いざ自分で作るとなると、幅広い知識や発想の転換が必要になってきます。そこで、学生たちには日常的に「これは語呂合わせを作るかな？」という違う視点をもって過ごしてもらい、楽しみながら勉強してもらうことにしました。

manabaを利用して語呂合わせの文言と解説を投稿してもらい、計96点の力作が寄せられました。中には、1人で8作品をエントリーしてくれた学生も。投稿された作品は学生間の投票で、最優秀作品賞・優秀作品賞・佳作を決めました。

残念ながら賞を取れなかった作品も含め、手のひらサイズの冊子にして4年生に配付。受け取った学生たちは早速中身を確認し、「国家試験の勉強でなかなか覚えられないような言葉が面白い語呂として掲載されており、楽しみながら国家試験の勉強に活かせると感じた」などとコメントを寄せてくれました。日々の勉強に「語呂合わせ」の暗記も加え、全員合格を目指して頑張ってください。（医学検査学科・田邊香野）

**本学取り組み特別番組で紹介 TKU 26日10時35分放送**

本学が今年実施した様々な取り組みの様子が26日（土）午前10時35分から、テレビ熊本（TKU）の特別番組で紹介されます。「地域を支える次世代の医療プロフェッショナルに～熊本保健科学大学で描く未来～」と題した約1時間の番組です。「からだのふしぎ探検」や高校生アスリート支援といったさまざまな

イベント、取り組みや、OB・OGへのインタビューなどで構成されています。同局による本学特番は、昨年12月に放送された「“生きる”をひらくスポーツヘルスサイエンス～熊本保健科学大学の新たな挑戦～」に続く第2弾です。ぜひご視聴ください。

（入試・広報課）

竹屋学長の「現在」を語る



コンソーシアム熊本講演会

会場は国重文 竹屋学長が登壇

大学コンソーシアム熊本（コンソ熊本）による初の有料講演会が10日（木）、熊本市中央区の熊本大学黒髪キャンパスにある旧第五高等学校化学実験場であり、本学からは木下統晴理事長をはじめ9人の教職員が聴講しました。

講演会は、コンソ熊本の「歴史」、「現在」、「将来像」で構成。歴史を中山峰男崇城大学長、現在を竹屋元裕本学学長、将来像を小川久雄熊本大学長が担当し、次々と演壇に立ちました。

現在のコンソ熊本の役割について講演した竹屋学長は、4つの事業推進部会での取り組みを振り返りました。さらに、他地区の大学コンソーシアムの取り組みを例に挙げながら、今後考えられる取り組みを提起しました。

会場が国の重要文化財に指定されている建物内にある階段教室ということもあり、参加者は学びの歴史を肌で感じながら今後のコンソ熊本の可能性に思いをはせていました。

（河瀬晴夫）

社会的フレイル防止へ健康教室

リハビリテーション学科生活機能療法学専攻の宮田浩紀講師が11月2日（水）から、西里地区周辺の高齢者を対象にした健康教室を始めました。宮田講師の研究の一環で、家族や地域との交流機会が減少する社会的フレイルの発生状況を明らかにし、園芸と運動の複合プログラムによる介入が予防や改善に効果があるかどうかを検証することを目的にしています。

活動は週1回、本学で行っており、初日は高齢者の測定会を実施しました。10日（木）からは約40人を「運動・コグニサイズ」のグループと「園芸・ガーデニング」のグループに分けて活動を開始。運動グループは自分の体力に合わせ学生と学内をウォーキング、園芸グループは園芸用のウォールハンガーの製作を始めました。

今後は、それぞれのプログラムを週1回、3カ月間継続します。その後、3カ月間空けて、次は前回と違うプログラムを3カ月間実施してもらう予定です。（安部悠介）

OT専攻
宮田講師



ウォールハンガーを製作する参加者と学生たち

本学での体験基にポスター製作

小5・為近咲さん 熊本市科学展に出展

熊本市の小・中学校科学探究物及び創作品展示会「熊本市科学展」が10月20日（木）～23日（日）まで旧松尾西小学校体育館であり、本学リハビリテーション学科生活機能療法学専攻の為近岳夫准教授の長女で小学5年生の咲さん（11）が製作したポスターが紹介されました。

咲さんは8月6日（土）に本学で開催された小中学生向けイベント「からだのふしぎ探検」で、半身まひを疑似体験しました。その時の体験や学びを基に「片手で生活する工夫」と題したポスターを作成。校内選考で金賞を獲得し、同展への出展となりました。惜しくも県科学展への出展は逃しましたが、為近准教授は「大学で開催されたイベントをきっかけに、自分で興味を持ったことに自ら取り組んだことは良い夏休みの経験になったと思う」と咲さんの頑張りに目を細めていました。（安部悠介）



自作のポスターの前で賞状を
持つ咲さん



医学検査学科 飯伏 義弘教授

生体内の臓器や組織は、超音波診断法、磁気共鳴画像（MRI）法などにより画像として描出することが可能です。医学検査学科3年次の必修科目「画像検査学」では、超音波検査を中心に、正常像ならびに代表的な疾患についての症例を取り上げ、解剖学的、臨床病態学的な知識をもとに各疾患の臨床像と画像との関連性及びその診断法について学びます。

超音波検査では、骨と肺以外のほぼすべての臓器の観察が可能です。心臓、肝臓、膵臓、胆嚢、乳腺、甲状腺、様々な血管、大腸などが断層像として描出されるため、病変の把握が可能となります。その他、血流の観察や各種計測を行い、病気の重症度判定、治療効果判定など幅広く活用されているのです。

しかし、この検査は、我々臨床検査技師が探触子という器具を使って検査をし

断層像による診断法を学ぶ

ていくため、知識と技術、経験が大切になってきます。本学では、基礎的な講義だけでなく、実際の超音波診断装置を使用して技術を習得していきます。

将来は専門学会の「超音波検査士」という認定免許を獲得することも可能です。



腹部超音波検査の基礎断面について学生に説明する飯伏教授（左）

銀杏アラカルト

◆学校推薦型選抜入試を実施 年内入試における主要な入試区分のひとつである学校推薦型選抜（指定校・公募）が19日（土）に実施されました。午前中は筆記試験、午後は面接試験と終日かけて実施され、

両試験とも滞りなく終了しました。多くの方々よりご出願いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。なお、学校推薦型選抜の合格発表は12月1日（木）です。

（入試・広報課）

◆TOEIC課外クラス始まる 共通教育センターの森友子さんによるTOEIC課外クラスが14日（月）に始まりました。コロナ禍による2年半の中断を経ての再開です。主にTOEICを初めて受験する人やスコアアップを目指す人を対象にしていますが、受講生の目的はさまざまです。伊東凜佳さん（看護学科3年）は「大学院受験のため」、山崎拓実さん（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻4年）は「将来海外で働きたい」と、それぞれの夢を語っていました。TOEIC課外クラスは月・水曜の5限に学期末まで開講予定です。本学では団体申込みによるTOEIC L&R IPテストを年に3回実施しており、次回のテストは12月10日（土）です。受験申込みは11月30日（水）まで。学内試験会場での対面試験に加え、自宅PCを使ったオンラインでの受験も可能です。TOEIC課外クラスもしくはTOEIC L&R IPテストに興味のある方は森さん（共通教育センター）にご相談ください。（安部悠介）



TOEIC課外クラスで受講学生を指導する森さん（右）

ソウル雑踏で転倒 154人死亡 ハロウィーン 日本人2人も

(2022年10月31日付熊本日日新聞 1面)

概要

韓国の首都ソウルの繁華街・梨泰院の路地で、ハロウィーンを前に集まった多数の若者らが折り重なるように倒れる事件が起きた。外国人20人超を含む154人が死亡、130人以上が負傷した。新型コロナウイルス対策の規制が解除されて初めて迎えるハロウィーン前の週末で、韓国メディアは、十数万人が集まっていたとの推計を伝えている。(医学検査学科・木村たえ)

コメント

本来、楽しい思いで過ごすはずのハロウィーンに、このような出来事があったことはとても悲しく感じた。実際にニュースを見てみると、事故直後に道端で心臓マッサージを受けている人が多く見られた。死亡の原因の多くは窒息だったと知り、「人混み」でも、人が亡くなってしまうほどの圧力が生まれることに恐ろしさを感じた。今後、祭りやイベントにおいては、安全性に十分配慮し、警備など対策の徹底を今一度考えることが必要だ。(リハビリテーション学科生活機能療法学専攻・柴畑采実)

インフォメーション

週間行事予定 (11月26日～12月2日)

11 / 29 (火)	第Ⅱ期中期計画説明会
11 / 30 (水)	銀杏学園理事会